2024 年キリストの教会全国大会 in 岡山

詩篇第 27 篇　「主を待ち望め」

第一説教：**「光の主を待ち望もう」**　　千田俊昭

【Introduction】

今日の説教題冒頭の言葉は**「光」**です。これは詩篇第 27 篇 1 節の**「主は私の光」**から取りました。*では、光の反対と言えば何でしょうか？*……**「闇、マックラ」**ということですね。

マックラというと、思い出す事があります。大阪聖書学院のチャペルで、リモート説教をした時の事です。その中で**「私は元来ネクラで…」**と言ったことがありました。説教が終わると今大会の事務局長・杉山さんがニコニコとカメラの前に立ち現れ、あの頃は Skype でしたが、今ならまさしく Zoom Up ですね、こう言ったんです、**「千田は～ん、そっちがネクラなら、こっちはマックラやでぇ！」**私は驚くと同時に感心しました。というのは、この短いコメントの中で、シッカリと韻を踏んでいるんです。**「そっち・ネクラ、こっち・マックラ」**。そしてちゃんと励ましになっているのです。**「ネクラから解放されてヨカッタなぁ！」**。さすがですね。

さて、その**「マックラ闇」**ということですが、*皆さんは“真闇体験”をお持ちでしょうか？*……「人生の真闇なら、何度も潜(くぐ)らされた」という方は多いかも知れませんね。では、*今の子供たちはどうでしょうか？*今はどこでも街灯が灯っているので、多くの子供たちは真闇の怖さを知らないと思いますが、私は幼い頃に母の実家で体験した真闇の恐ろしさを今でも忘れることができません。

まだ小学生の頃でした。母の実家は岩手県一関市の山里にありました。近くの親戚の家でちょっと遊びすぎた私は、母の実家に戻ろうとして外に出ると、街灯はなく辺りは真っ暗でした。空は曇っていて月も星も全く見えない上に、右側には大きな川がゴウゴウと流れ、崖から足を踏み外せば真っ逆さまという恐怖。でも戻らなくちゃいけない。すると、遙か向こうに実家の明かりが小さく見えたので、その光を目指して、田圃の中を無我夢中で走りました、ようやく辿り着いた時、私は全身泥だらけでした。あの真闇はまるで漆黒の墨を飲むような恐ろしい恐怖体験でしたが、同時に、闇の中に光るほんの小さな明かりが、どれほど**心強い導きの光**になることかを知った体験でもありました。

さて、**「主はわたしの光」**で始まる詩篇第 27 篇の標題には**「ダビデの歌」**とあります。旧約聖書には「七十人訳(しちじゅうにんやく)」と呼ばれるギリシャ語聖書があります。紀元前 3 世紀から 1 世紀にかけてエジプトで翻訳されたとされるものですが、その標題には**「ダビデが油注がれる前」**と書かれています。これは少年ダビデが

預言者(よげんしゃ)サムエルによって油を注がれたというサムエル記上第 16 章の出来事を思い起こさせます。あの箇所で印象的なのは**「人は外の顔形を見、主は心を見る」**という御言です。ということは、主はダビデの心を見て、この少年こそ次の王に相応しいとされたというわけです。ただ、ある人は**「心を見られるほうがもっと怖い」**と言っていました。**確かに、確かに…。**

詩篇は全部で 150 篇ありますが、その中で**「ダビデの歌」**という標題があるものは 73 篇あり、その多くは**嘆願から讃美へ**という流れになっています。しかし、今回の詩篇第 27 篇はそれとは異なっていて、まず**「主は私の光だ」**と始められ、末尾が**「主を待ち望め、主を待ち望め」**ですので、**信仰から奨励へ**となっています。今日は、この詩篇第 27 篇を通して、***「心を見る神」が油を注いで王としたダビデの、祝福された信仰とはどのようなものなのか***を、ご一緒に学びたいと思います。

1. ダビデの信仰

では、まず最初にダビデの信仰を見ましょう。**「主は私の光だ！」**これは**信仰告白**だと思うのです。「イエス様は私の救い主です」との告白はしても、「主は私の光です」との信仰告白は珍しいのではないでしょうか？*ダビデはどのようにしてこの信仰に導かれたのでしょうか？*

私が最初に思い描いたのは、羊飼いの少年ダビデが小羊を傍らに夜空を見上げ、満天の星空に月明かりが煌々と照りわたる中、竪琴を奏でながら、「主は私の光です」と讃美する姿でした。でも、***実はそんなロマンチックな情景を指していないのではないか***と思わされたのです。というのは、１節の後半には、**「わたしは誰を恐れよう。主は私の命のとりでだ。私は誰をおじ恐れよう」**とあり、更に２節には「**わたしのあだ、わたしの敵である悪を行う者どもが、襲ってきて、わたしをそしり、わたしを攻めるとき、彼らはつまずき倒れるであろう」**と続いているからです。これは少年ダビデの歌というよりも、サウル王から執拗な迫害を受け、幾つもの苦難を経験した後の歌だと思われるのです。ダビデが王となったのは 30 歳位ではないかと言われます。すると、これは王になる前の苦難の年月から生まれた詩篇であって、標題が意味することは、彼が王として就任する戴冠式で、油を注がれる前に作られた歌だと考えられるのです。「主は私の光」は、そういう大人の信仰告白なのです。そうであるとすれば、*この告白はどのようなことを意味しているのでしょうか？*

「人生の三大疑問」ということを聞いたことがあるでしょうか？……第一

の疑問は**「私は何者(なにもの)なのか？」**　第二は「**私は今、何をしているのか？/すべきなのか？」**　そして第三は**「私はこれから、死後も含めて、一体どこへ行くのか？」**という、人生の過去・現在・将来に亘る疑問です。あるいは、青少年期・壮年期・老年期といった各々のライフ・ステージに於いて、私たちが心にいだく疑問、と言うことができるかも知れません。いずれにしても、本当の平安にはこれら三つの疑問にきちんとした答を持っていることが必要だというのです。*そうであるとすれば、皆さんはどのような答をお持ちでしょうか？*今ご一緒に考えてみたいのは、*ダビデの***「主は私の光」***という信仰告白は、これらの疑問のどれに答えるものなのか？*ということです。結論からいうと、**実は三つの疑問の全てに答えている、と言うことができるのではないでしょうか。なぜなら…**

第一の**「私は何者なのか？」**という疑問に対して、**「主は私の光」**と言うことによって、ダビデは**「神様が私の主人です。だから、私は主の僕です」**と告白していることになります。ディートリッヒ・ボンヘッファーというナチス・ドイツ時代を生き、終戦の直前に処刑された神学者は、このことについて**「私は何者？という疑問に対して、私は主のものと答える」**と言っています。主のものとされていることに限りない平安を見出した人の信仰告白です。

第二の**「私は今、何をしているのか？/すべきなのか？」**という疑問に対して**「主は私の光」**は**「私は主の僕として、主の御心と御業に用いられ、活かされている」**と答えていることになります。

また、第三の**「私はこれから、一体どこへ行くのか？」**という疑問に対しては、**「光なる主は、私の道をいつも照らし、示して下さる方だ」**との確信を語っています。

このように**「主は私の光」**という簡潔な信仰告白は人生の三大疑問の全てに明確に答えている、確固不動たる信仰告白を見事に表しているのです。**ダビデのこの信仰告白は素晴らしい！そしてその信仰に導いた主なる神はほむべきかな！**ですね。

こう言うと、*「その誉め称えているあなた自身はどうなのか？」*という声が聞こえてきそうなので、私の証を少しくお話しさせて戴きたいと思います。

2. 証

冒頭で**「私は元来ネクラで…」**と言いましたが、私が教会に行くようになったのは中学に入った頃で、**「光」を求めて**のことでした。こう言うと、何か気取っているように聞こえるかも知れませんが、そうではないのです。数年前の事ですが、幼い頃によく遊びに行った東京の 10 歳以上年上の従姉妹(いとこ)から電話が来ました。**「今、何の仕事しているの？」**と聞かれたので**「キリスト教の牧師だよ」**と答

えると**「ええ、あの腕白坊やがぁ?」**と言われました。私はどうやら、本来はネクラではなかったようです。それが光を求めるようになった理由として考えられるのは、家が暗かったからで、実は、両親が不和だったのです。不和の原因は太平洋戦争でした。戦争が人々の夢と希望を破壊し、その人生を狂わせ、心と家庭を荒廃させるのです。私の家がそうであり、実際、私が 24 歳の時、両親は離婚しました。

そのようなわけで、**「光はどこにあるのだろう？」**と思っていたのですが、幼い頃に通(かよ)ったお寺の幼稚園の**「黒々とした仏像がある本堂の中には無さそうだし、真っ暗な祠(ほこら)を祀(まつ)る神社にもない」**と思いました。むしろ、その頃に通っていた英語塾のある、**教会に光がありそうだ**と思ったのです。それで、ある日、先生に**「あのぅ、礼拝ってあるんですか？」**と尋ねたところ、**「ありますよ。日曜日の朝９時にいらっしゃい」**というので行ってみました。

案内されたのはいつもの塾の部屋でした。藁葺屋根の寺子屋で長い座卓が置かれた畳部屋です。**あれ、ステンドグラスは？オルガンは？**と見回していると、浴衣姿の先生が、聖書と聖歌を小脇に抱え、団扇でパタパタ扇ぎながら現れ、「これを読みなさい」と聖書を手渡され、伴奏なしで「キリストには代えられません」を歌い出しました。礼拝出席者はわたし一人でした。しかも、その日に読まれた聖書箇所はヨハネ伝の冒頭でした。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。
この言は初めに神と共にあった。すべてのものは、
これによってできた。できたもののうち、
一つとしてこれによらないものはなかった。」

13 歳の私には意味が全く分かりませんでしたが、次の言に私の心は惹きつけられました。というのは…

「この言に命があった。そしてこの命は人の“光”であった。
“光”は闇の中に輝いている。そして、闇はこれに勝たなかった。」

と続いていたからです。**「その“光”の話を聞きた～い」**と思いましたが、牧師は「ゲーテ臨終の言葉は『もっと光を！』でした。このゲーテという人はね…」と、その日の説教はゲーテについてのお話しだけ。私は、説教が終わってから**「あのぅ、言(ことば)って何ですか？」**と聞くと、「言をキリストに読み換えるといいですよ」と言われました。**「初めにキリストがあった。キリストは神と共にあった。キリストは神であった。」ナルホド。でも、なぜ言がキリストなんだろう？**という疑問が残り、**また来てみよう**と思いました。こんなふうにして Man to Man 礼拝が始まったの

です。毎週の礼拝説教には、古今東西の哲学者・思想家の名前が続々登場し、チンプンカンプン。でも聞いていると、何だか自分が賢くなれるように思われて、クラブ活動とぶつからない限り、通い続けました。

しかし、中学・高校と教会に通(かよ)った私の結論は**「十字架も復活もナンセンス！」**でした。そして神様は人間の罪を罰する怖い方に思われ、大学進学で仙台に行くのを機に**「怖い神様サヨウナラ」**と教会に行くのをやめました。ただ、キリストの言葉には何か惹かれるものを覚え、聖書は少しずつ読み続けました。大学はミッション系でしたが、チャペル礼拝にはほとんど行かず、卒業後、私は仙台市内の LPGas スタンドに就職しました。

人生の転機は 28 歳の時に訪れ、再び教会の礼拝に行くようになりました。きっかけは「語学を学びたい!」という思いだったのです。会社のアルバイト学生が語学に堪能な牧師を紹介してくれました。会ってみると、こう言われたのです、「礼拝に出席して下さるなら、礼拝後に無料でお教えします」との事だったので、**「礼拝なら昔、通(かよ)ったことがあります。宜しくお願いします」**と**「旭ヶ丘キリストの教会」**に集うことになりました。

こうして２年ほど経った 30 歳の夏、私は思いがけず同時に四つの苦難に襲われ、蟻地獄の恐怖と苦しみとを味わいました。というのは、ギックリ腰で歩けなくなった時に風邪をこじらせ、その上にかねてからの借金苦が重なり、しかも深い鬱状態に陥ってしまったのです。もがけばもがくほど、ズルズルと奈落の底に落ちて行くような恐怖感の中で**「神様！助けて下さい！」**と叫びました。その時、イエス様の言**「私の名によって祈りなさい」**が思い出されたので、**「イエス様のお名前によってお願いします、アーメン！」**と付け足しのような祈りをしました。生まれて初めての真剣ながら幼い祈りでしたが、その途端に蟻地獄のズルズル感がピタッと止まるのを覚えました。しかし、その不思議な平安感の中で、今度は自分がこれまでの 30 年間に犯してきた様々な罪が、頭の中を走馬燈のようにグルグル回り始めたのです。私は苦しくなり、**「自分では全部を償い切れない！」**と思った時、十字架のイエス様の言が響いてきました、**「父よ、彼らをお赦し下さい。彼らは何をしているのか分からないのです。」**私は、**まさしく自分の事をとりなしている祈りだ**と思われ、**ここにだけ自分が赦される道がある**と思いました。そして、**十字架という断末魔の苦しみの中で、なおこのような執り成しの祈りが出来るのは人間じゃない。この方こそ神の子だ。しかも、キリストは予告通り三日目に甦ったと聖書に書かれている。それは、このかたが言ったことは必ず成るという確かな証拠だ。そして、この十字架と復活を預言し成就したのは神様の愛。すると世界は神の愛(あい)で出来ている！自分**

が求めていた光とは神様の愛だったのだと分かりました。

次の週の礼拝の後で、牧師にこの体験を話したところ、洗礼を勧められ、マルコ 16:16 **「信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる」**の御言に迫りを覚えて受洗しました。水から上(あが)った時,牧師が耳元で「千田さん、あなたの人生変わりますよ」と囁いた時、私は心の中で**「変わるもんか。30年間、何も変わらなかったんだから」**と呟いたのです。しかし、本当に変えられました。**「神の言を学びたい！」**との思いが心に与えられ、様々な困難もありましたがすべて整えられ、２年後に神学校への道が開かれました。ただ、この時はまだ、伝道者として献身したいとの思いはなく、単に**「現代にも生きている神の言を真剣に学んでみたい」**というだけの思いだったのです。

神学校はアメリカ・オハイオ州にあるシンシナティ聖書神学校でした。2 年目の夏休みにインターンシップとして、アメリカ人二人と日本人二人、合計４人の学生で**「オハイオ・シンガーズⅢ」**を結成し、東京から種子島まで約二ヶ月間の演奏旅行をしました。これによって与えられたのは、現在までも続く多くの人々との出会いと体験で、その時に岡山クリスチャン・センターにも立ち寄ったのです。そして、大阪聖書学院で、やがて妻となる人にも出会いました。

私にとって転機となったのは、この旅によって**伝道者への召命**を与えられた事です。マイクロバスで移動中、たまたまある町のネオン街を通過していましたが、私は突然に**「日本は戦災から漸く復興したのに、もう、滅びに向かっている。今必要なのはキリストの福音を伝える者だ！」**という思いに打たれ、その時、イザヤ書 6 章 8 節の御言が思い出されました：

「私は誰を遣わそうか。誰が我々のために行くだろうか」。
その時、私は言った、「ここに私がおります。私をお遣わし下さい」

それは**自分の為の学び**から、**伝道する為の学び**に変えられた出来事でした。

3. ダビデの願い

さて、ダビデは４節で**「わたしは一つの事を主に願った、わたしはそれを求める」**と言っています。*みなさんは「願いを一つだけ叶えてあげよう」と言われたら、何を願いますか？***「ひとつだけ」**と言われると難しいですよね。ダビデはこのように主に願ったと書かれています：

「わたしの生きるかぎり、主の家に住んで、主のうるわしきを見、
その宮で尋ねきわめることを。」

不思議な願いです。この**「家」**という言葉には大きく３つの意味があります。

第一は**建物/神殿**、第二は**家族**、第三は英語の**home**です。私はこの home という言葉のニュアンスがいまいち分からず、鹿児島の Walter Maxey さんに尋ねたことがあります。彼の答は**「それはね、家族団欒の居場所を表す、とても大切な言葉なんだよ。結婚する目的はこの愛と平安のある home 造りなんだ」**ということでした。

そうすると、ダビデはどの意味で「主の家」と言ったのでしょうか？建物か家族か居場所か？… 彼の時代に神殿はまだなく、息子ソロモンの時代になって初めて神殿が建てられたのです。それまで礼拝は主の**幕屋**で行われていました。そうすると、ダビデが願った「主の家」とは、主の愛と平安に満ちた**居場所としての「家」**だったことが分かります。

では*「主の家」で何をしたいのか？*ということについて、4節で三つのこと、つまり**「主と共に生きる」**、**「主の麗しきを見る」**、**「主を尋ねきわめる」**と語られ、それが更に5節から7節で詳しく述べられ、特に7節では、主の名を呼んで尋ねる時「私に答えて下さい」と祈っています。ダビデは主の真善美聖をもっと「尋ね究めたい」と願っているのです。この願いに対する主の答が8節に書かれています：

「あなたは仰せられました、『わが顔をたずね求めよ』と。」

主の不思議な答です。**「わが顔をたずね求めよ」***とは、一体どういう意味なのでしょうか？*この表現は詩篇 24 篇 6 節に**「これこそ主を慕う者のやから、ヤコブの神の、み顔を求める者のやからである」**とあり、*どういう人が「主のみ顔を求める」人であるか*がその第3節からこう書かれています：

主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。
手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、
偽って誓わない者こそ、その人である。

ですから、**罪のない聖い者が祝福を受け、救いの神から義とされる**というのです。ところがローマ 3 章 10 節でパウロは詩篇第 14 篇を引用して次のように言っています：**『義人はいない、ひとりもいない。悟りのある人はいない、神を求める人はいない。』**

「神を求める人はいない」*との御言を皆さんはどう思いますか？……* 私はここを読んだ時、**「いや、自分は神を求めているぞ」**と思いました。しかし、考えてみると、私が教会へ行ったのは確かに、光“**を**”神“**に**”求めてのことであり、神ご自身“**を**”求めてのことではなかったのです。そして、信仰に導かれ

た後でさえ、いつも様々なもの“**を**”神“**に**”求めるばかりだったと思い当たりました。まさしく、**『義人はいない、ひとりもいない。悟りのある人はいない、神を求める人はいない**』との御言通りです。そして自分の罪や汚れは棚に上げて、**「神様、あれして下さい、これして下さい。私の思い通りにしてくれない神様は私の神ではない。神はいない。」**と言って**自分をまるで神にしてしまっているのが私たち人間の罪です**。そうすると、**「神を求める人はいない」**というのは**神様ご自身の深い嘆きを表している御言**と言うべきではないでしょうか。ダビデの時代のみならず、現代でも、自分の願望や計画の実現のみを神に求めるというのは変わらない罪人なる人間の現実と言うことができると思うのです。

ミシェル・クオストという詩人に『聴き従う』という詩があります：

子よ、君のために私はもっと求める。
今までは、君が君の意志通りに行動してきたが
そういうものはもういらない。
君は私の承認と指示を求め
君の仕事に私を巻き込もうとした。
子よ、分からないのか、それでは立場は反対だ。
私は君のすることを見てきた。君の善意も見た。
しかし今では、それ以上のことがほしいのだ。
君は、君の仕事をもう諦めて
君の父なる神の意志を受け入れてくれ。
子よ、『はい』と言ってくれ
わたしがこの地上にやってきたとき
マリアの『はい』が必要であったように
きみの『はい』が今必要なのだ。
君の仕事を進めるのは、私でなければならぬ。

まさしく、私たち人間の主客転倒な不信仰の姿を表していると思わされます。

*ではどうすればよいのでしょうか？*先ほど引用したローマ書の**「神を求める者は一人もいない」**に続く 3 章 23,24 節でパウロは次のように言っています：

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を
受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、
キリスト・イエスによる贖いによって義とされるのである。

救いは人間が自分の力と業で為し得ることではありません。しかし、**それでは救われる者は誰一人いない**ことになります。だから主なる神は御子イエス・キリストを私達の世界に送って下さり、その十字架と復活によって私達の罪の聖めの御業を成し遂げて下さったのです。**ここに神の愛があります。**

これは私が心を掴まれたヨハネ伝第 1 章の言**「この言に命があった。そしてこの命は人の“光”であった」**に続く次の御言を思い起こさせます：

> **「すべての人を照(てら)すまことの光があって、世にきた。**
> **彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、**
> **世は彼を知らずにいた。 彼は自分のところにきたのに、**
> **自分の民は彼を受けいれなかった。**
> **しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には**
> **彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじに**
> **よらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神に**
> **よって生れたのである。**
> **そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。私たちは**
> **その栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、**
> **めぐみとまことに満ちていた。（ヨハネ1章9-14節）**

まさしく御子は光として私達の世界に来てくださいました。そして私たちを聖め、神の home に導く方となって下さったということを、聖書は旧約・新約を通して雄弁に語っています。この**「光の主を待ち望もう」**というのが、神の出来事なる数々の御業を目撃したダビデが、私たちに呼び掛けていることなのです。

4. 旭ヶ丘キリストの教会で体験した「主を待ち望む」40年の恵み

ここで「主を待ち望む」恵みの体験を証させて戴きます。

神学校卒業後、鹿児島の Mark Maxey 宣教師の計らいにより、末吉(すえよし)キリストの教会で１年間の研修をすることができました。もっとも、その初日の礼拝で**「見習い牧師の千田俊昭です」**と挨拶したところ、Maxey さんから**「見習いではありませ～ん。本番で～す」**と声が掛かり、身の引き締まる思いがしました。懐かしい想い出です。

さて一年後、ヨシュア記冒頭の**「今あなたと、このすべての民とは、共に立って、このヨルダンを渡り、わたしがイスラエルの人々に与える地に行きなさい」**との御言に押し出され、多くの出来事や人々の励ましを受けつつ、母教会のある仙

台に着きました。しかし、そこで驚いたのは**教会が閉鎖されていた**ことです。私はそれを見て**「教会には誕生と成長だけでなく、死もあるんだ」**という大きなショックを受けました。しかし、この 14 年後**「私たちの信仰は死で終わらない。教会にも復活がある」**ということを体験することになります。

ともかく、私たちは残されていた高齢の教会員の方に電話をかけた所**「私、どこにも行く所ないんだよ。早く礼拝始めて下さい」**と言われました。じきに、そのかたが徒歩で通える近くに借家が与えられ、開拓伝道を始めることができました。最初の１年は私たち夫婦とその方という３人の礼拝でしたが、４年後、手狭になったので Maxey さんに相談したところ、紹介された四谷ミッションからの借り入れもでき、近くの北根黒松に中古住宅ながら教会堂を購入することができました。暫(きた)くして自動車旅行の途中に来訪したのは茶目っ気ある杉山さん。**「北根黒松。汚(きた)ねぇ黒松かい？」**というので**「いえいえ、“よく来たね黒松へ”ということですよ」**と答えましたが、確かに、その会堂は大風(おおかぜ)にも揺れ動く古い建物で、そこで私たちは 10 年間礼拝しました。

その８年目のことです。登録して 10 年間、何事も無かった骨髄バンクドナーに立て続けに二度も該当し、その度に大学病院でドナー講習を受けて待機しました。講習では「99 ％大丈夫ですが、１％、ドナーさん自身の死亡ということもあり得ることをご了承戴けますか？」と言われたので**「分かりました。私は牧師です。」**と答えました。二回とも患者さんの都合により「コーディネイト終了」になったのですが、とても考えさせられたのは**「これは、『死の準備をしなさい』という神様からのメッセージではないか」**ということでした。

私の死亡によって一番問題になるのは、わたし名義の教会堂不動産です。宗教法人格がないので、個人財産として登記せざるを得なかったのです。そこで、思いついたのは、黒松会堂購入時にお世話になった四谷ミッションに寄付し、無料の使用貸借契約にしていただけないかということでした。お願いしてみたところ、了承が得られ、2002 年の夏に移転登記を済ませることができました。

ところが、その 11 月のある日曜日のことです。礼拝出席者がゼロになってしまったのです。教会員が去ったというのではなく、皆さんの様々な事情が重なっての事だったのですが、私達は「礼拝者ゼロ、財産もゼロ」と落ち込みました。その時、与えられたのがハガイ書 2 章 3-4 節の御言です：

あなたがた残りの者のうち、以前の栄光に輝く主の家を見た者はだれか。
あなたがたは今、この状態をどう思うか。これはあなたがたの目には、
無にひとしいではないか。主は言われる。この地のすべての民よ、
勇気を出せ。働け。わたしはあなたがたと共にいると、万軍の主は言われる。

「主は全てをご存知だ」と分かりました。その他にいくつもの御言が与えられ、本当に心が励まされました。

さて、年末に仙台市内の「超教派新年聖会(せいかい)案内」が送られて来た時、20 年程前の友人が牧師になっていることを知り、何とか会いたいと思いました。連絡が取れ、彼の自宅で会った時、帰りがけに**「千田さん、この家を教会堂として買って貰えませんか？」**と言われました。事情を聞くと、「幼稚園を相続して園長になったけれども、相続税が払えないので、新築８ヶ月のこの家を手放したい」というのです。私は去年からの出来事を説明し**「ムリ、ムリ」**とお断りすると、「是非、そのミッションさんに尋ねてみて下さいよ」と言われました。渋々尋ねてみたところ、「いよいよ動き出しましたね。是非、その物件を見たい」と言って理事が仙台に来られて、あれよあれよという間に、ミッションが購入し、私たちに無料で使用させて下さる事になりました。そして何と、2003 年のイースターには、新会堂で**主の復活**と旭ヶ丘キリストの**教会の復活**をお祝いすることが出来たのです。

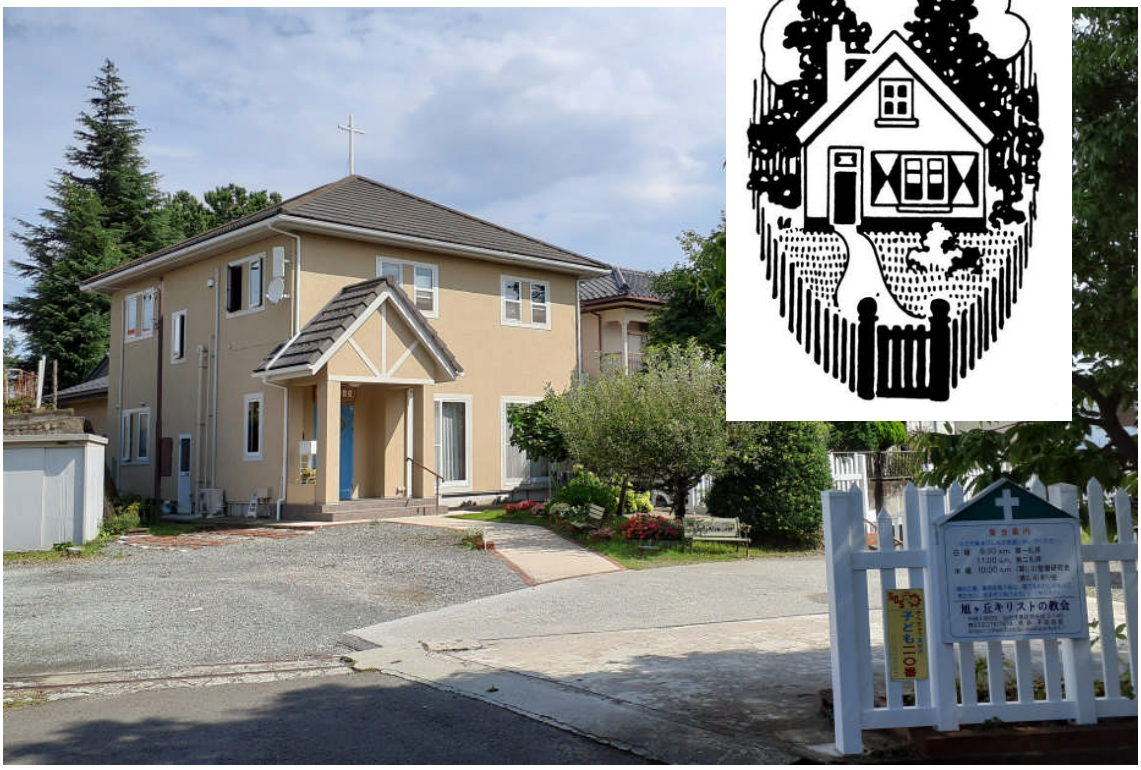
新会堂に引っ越し、改めて驚きました。その外観が、開拓伝道以来、週報の表紙にしていた図案と同じだったのです。それは私が神学校一年生の時、町の文房具屋で見つけたカット集の中の気に入っていた一枚ですから、この会堂は 20 年前から与えることが主の御計画にあったことになります。そして昨年、図案通りの外柵が寄贈されました。カット集購入から 40 年です。人間の時と思いを遙かに超えた**「光の主を待ち望む」**ことの恵みと喜びを体験した出来事でした。

【結論】今日は**「光の主を待ち望もう」**という主題で、ご一緒に詩篇第 27 篇の御心を学びました。**皆さん、主「に」求めるのではなく、主「を」求めましょう。**主なる神**に**自分の計画の実現を求めるのではなく、主とその御心**を**求めましょう。**光の主を待ち望みましょう。**暗闇を吹き払う光と幸いは主にのみあるからです。そして、私達の主は時に叶って御心を成し遂げてくださるお方だからです。感謝してお祈りを致します。

【祈り】天の父なる神様、あなたの御心は私たち人間の思いを遙かに超えて偉大です。御子を惜しまずにお遣(つかわ)し下さり、永遠の昔から御計画された恵みと救いの御業を成就なさいました。私達は貴方の御顔(みかお)をこそ尋ね求め、主を待ち望み、ダビデと共に告白します。「主は私の光です！」御名(みな)が崇められますように。主イエス・キリストのお名前によってお祈り致します、アーメン。

週　報
旭ヶ丘キリストの教会
〒981-8003 宮城県仙台市泉区南光台３－１－45
☎ 022-275-7874　牧師：千田俊昭
http://www.h5.dion.ne.jp/~biblroom/
E-Mail: xpistosi@k3.dion.ne.jp

原画（1984）


旭ヶ丘キリストの教会